

# 國學院大學學術情報リポジトリ

## 南部方言の形容詞のアクセント

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2023-02-06 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 上野, 善道 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.57529/00000951">https://doi.org/10.57529/00000951</a>

# 南部方言の形容詞のアクセント

上野 善道

キーワード：南部方言、形容詞、アクセント、音韻と文体、語幹の統一

要旨：旧南部藩の方言4地点5人の話者から得た形容詞170項目のアクセントとその語形を提示し、そのアクセントについて記述する。無核型と語末音節に核のある型の2種類を基本とするが、5モーラ以上の単語では、それより前の位置に核をもつ例がある。前鼻音を伴う無声子音の位置づけも取り上げ、新たに文体レベルの視点を導入した音韻解釈を行なう。

## 1. はじめに

青森・岩手両県にまたがる旧南部藩の方言（南部方言）から、今回は4地点（5人）の形容詞アクセントを取り上げる。用言アクセントの調査として動詞とともに行なったものであるが、全体の項目数が1500あって全部の掲載は無理なので、今回は形容詞の170項目に絞って掲げることにする。なお、青森市（津軽方言）の形容詞についての詳しい報告は上野（1991）を参照されたい。また、青森県南部方言の名詞のアクセントについては、本稿と同じ話者の資料を上野（2017）に報告してある。それと同じ調査を岩手県の分についても終えてあるが、その報告は機会を改めたい。関連文献としては、盛岡アクセントを扱った森下喜一（1986）、北奥方言として青森市・八戸市・秋田市を扱った平山輝男（1982）等があるが、本稿は専ら私の調査資料に基づいて述べることにする。

## 2. 調査地点と話者

調査地点と話者情報は(1)のとおりである。

- |     |                                     |                          |                         |
|-----|-------------------------------------|--------------------------|-------------------------|
| (1) | 岩手県盛岡市八幡町 <sup>はちまんちやう</sup>        | 中谷眞也氏 <sup>なかやしんや</sup>  | 1929年生まれ                |
|     | 岩手県雫石町下町 <sup>しずくいしまちしもまち</sup> (1) | (故)上野ゑみ(母)               | 1926年生まれ                |
|     | 同上                                  | 上野善道                     | 1946年生まれ                |
|     | 青森県八戸市鮫町 <sup>はちのへ さめまち</sup>       | 榎谷伸夫氏 <sup>まさやのぶお</sup>  | 1948年生まれ                |
|     | 青森県下北郡風間浦村 <sup>かざまうらむら</sup>       | 越膳昌子氏 <sup>えちぜんまさこ</sup> | 1953年生まれ <sup>(2)</sup> |
- (形容詞の調査には、姉の山崎孝子氏<sup>やまざきたかこ</sup>1951年生まれも同席)

### 3. 項目

項目は、金田一類別語彙を中心に作成した『私家版アクセント調査票(C)』から抜き出したが、5モーラ語以上は一部追加もした。一部の基本的な単語については活用形のアクセントも調べたが、大多数は基本形(終止形)のアクセントのみを聞いた。

「類」は金田一語類のもので、たとえば「3k1」は3モーラ形容詞第1類を意味する。「4kz」など、最後が「z」になっているのは金田一語類になく、私が追加した単語である。

見出し表記の( )は意味の注記。「うまい(上手;美味)」のようにセミコロンで区切ってあるのはその意味の違いがアクセントの違いに反映される可能性のある項目で、実際にアクセントが違う場合は、各方言欄でもセミコロンで分けて記す(「2;0.(NmE)」と( )の前にピリオドがあるのは、( )内の語形が2と0とに共通することを示す)。アクセントに反映されないものは注記しない。形容詞はさまざまな意味・用法をもつが、時間の関係で今回は主要な違いに限って聞いた。

[ ]に入れたのは関連・参照語形で、「熱い(湯)[暑]」の盛岡方言のように語形・アクセントの違いに反映される方言がある場合は、やはりその語形・アクセントを[ ]に入れて示した。違いがない場合は、適宜記載を省いた。「軽い[軽こい]」、「せわしい[せわしない]」など、よく使われる関連派生語形なども[ ]に入れ、それらの語形も対応する[ ]に入れて示した。

「せわしない」に代表される、否定ではなく、形容詞の意味を強める「-な

い」を含む語形は多い。「おかしない、忙しない、痛まさない、恐ろしくない、(小)うるさいない、騒がしくない、憎たらしくない、やかましくない」などがそれで、紙面が限られている箇所は[-ない]で略記した。他にも、「寝苦しくない、気難しくない、小難しくない」も言えそうな気がする。シク活用が基本で、「(小)うるさい」の(-)urusasine (青森側)はシク活用に近づけた形であろう。

#### 4. 表記

表記は、「アクセント (語形)」の形式で、アクセントは昇り核の位置を、無核型は「0」、有核型は語頭から数えた数字で示す。

語形は、これまでと同様、キーボードから入力できるように設定した全国諸方言向けの簡略音声表記を用いた。注意を要するものを(2)に示す。これら以外は、ほぼ通常のローマ字読みを思えばよい。関連情報の記号も併せて掲げる。

(2) ˘b, ˘d, ˘z: 前鼻音化有声破裂・破擦音 (母音間のバダザ行に対応。青森側は時に˘が脱落)

˘p, ˘c: 前鼻音化無声破裂・破擦音 (次の母音が無声化する環境で出る)

c: 無声破擦音チとツの子音 (その有声音 z も母音間で前鼻音がないときでも破擦音)

ng: 鼻濁音 (ガ行鼻音子音で、例外なく出ると言ってよい)

E: 広いエ (私は e に統合している。青森側の話者も時に出るが対立はないと判断して e に)

中舌母音は表記せず、音韻的な判断で si, su, ci, cu, zi, zu のいずれかに割り振った (今や全員が標準語の発音もできる時代で、現実には標準語のシ、ジ、チの音声もよく出る)

語頭のイは微妙なケースもあるが、話者が「エ」と報告したもの以外は i とした

。: 母音の無声化 (入力の便宜上、真下ではなく右横に印す。「臭い」など、標準語と同じく義務的に無声化するものは省略)

\_ : アクセント単位の切れ目

x : 使わない意

m : 稀。ただし、直後に語形が続くときは(希)に。

(OK) : これで可 (入力ミスにあらず)

形容詞の語末を構成する二重母音は、日常語の場合、原則的に(3)の形で現われる。ただし、あまり使わない単語では標準語形のまま出現する。なお、融合形の有無について逐一確認をしたわけではないので、確認調査をすれば融合形がもっと出てくる可能性はある。

### (3) 二重母音の対応

標準語	盛岡・雫石(老)	雫石(私)	八戸	風間浦
-ai	-E	-e	-e	-e
-oi	-e	-e	-oi	-e
-ui	-u(雫石は-i/g_)	-u(同左)	-ui	-i

このうち、最も説明を要するのが-*ui*で、雫石では、直前の子音が*g*の場合、「低い」は*higi*で出る。それ以外の子音では、-*su*、-*zu*、-*cu*、-*ru*の歯音系列のみならず、-*bu*、-*mu*、-*ju*においても-*u*で出る。*higi*の場合に直前の母音-*i*の影響が考えられるかもしれないが、そうではない。「ぬくい」においても*nugi*となるからである。(なお、「寒い」を*sami*、*sa`bi*、「悪い」を*wari*、「明るい」を*agari*という形は雫石町内の周辺部でよく聞く。)また、「ずるい」は例外的に*zure*であるが、八戸方言に*zuroi*が出ているので、おそらくこの-*oi*形を経て-*e*に変わったものであろう。風間浦では、-*ui*は基本的に-*i*が対応するが、「ずるい、だるい、ぬるい」は(併用で)-*e*も出ている。八戸は最も融合が起こらず、-*oi*、-*ui*はほとんどそのまま実現する。

なお、八戸では、特にシク活用の-*シー*を中心に、語末を明瞭に長く発音されることが多かったので長母音で表記したが、これは後述の「文体」に関わっていて、実際には他方言と大きく異なる可能性がある。他では、言い切

り形では通常は半長になるが、後続要素が続くと短くなるのが一般的である。その中で「良い」は e、i と長く出ることが比較的多くある。

## 5. 音韻と文体（スタイル）

前節の融合の有無も広い意味で「文体」(style) に関係するが、音（配列）の存否自体が文体に関わることがある。以下、この問題は私自身の内省を踏まえながら述べていく。

「面白い」は東北各地で興味深い音変化を示すことで知られるが、岩手側では omosje と言う。シェは古い世代で普通に使われていたもので、世代が若くなるほどセに変わっているが、私の場合、この単語では-シェ以外はありえず、オモセは不自然である（むしろ omosure なら許容）。活用形でも、omosjegu\_ne 3+1（面白くない）、omosjegatta 3（面白かった）などが出る。同様の例は、動詞でも kosjeru 0（古い世代は kosjEru）（こさえる、《作る》意）、hasjeru 2（馳せる、《走る》意）、kasjeru 2（食わせる、元の終止形は ku）などに現われ、それぞれ koseru、haseru、kaseru は変である。これらの動詞から作った名詞の kosjegada 0（こさえ方、作り方）、hasjekurango 4（馳せくらご、かけっこ）でも同様である。

これらは、標準語との繋がりから離れて、独自の方言形としてこの-sje-形で固定化したもので、もはや-se-への置き換えは不可能になっている。方言形の中にのみ存在する音声となっている。方言形を一つの文体として捉えるならば、「音韻と文体との関係」ということになる。

音韻と文体との関係にはさまざまなものがある。「汗」や「背中」なども古い世代は asje、sjenaga（周辺地域には ahe、henaga もあったが、雫石旧町内では使わない）と言っており、私も祖父母などと話をするときはそれに合わせて asje、sjenaga と言っていたが、同級生と話すときは ase、senaga であって、asje、sjenaga は使わない。これらは、「同じ単語」の発音を話し相手の方言層のレベルに合わせて使い分けるという意味での文体差である。前出の omosje などは、すでに「別の単語」となっていて発音だけを変えることはできないという点でこれらとは異なる。omosje や kosjeru などはこのまま同

級生に対しても使える形である。(少し改まって言う場合は、別語の *omasure* や *cuguru* (作る) に置き換えることはある。)

この文体層をいくつ認めるべきか、層が整然と分けられるかは微妙な問題である。「早い[速]」の *ha(j)e*、「弱い」の *jo(w)e* など、資料篇で括弧に入れた *j*, *w* は、年寄り相手であれば発音するものの、同級生では絶対に発音しないかというところほどははっきりはしておらず、*j*, *w* を入れてもそう違和感がない感じがする。入れても *sje* ほどは目立たないこともあって、括弧で示しておいた。

関連して、「強い」は老年層相手には *cuje* もありそうに感ずるが、実際はむしろ *cue* で、同輩に対してはより新しい *cui* と言う。この *i* は独立した音節で核を持ち、*cuigu\_naru* (強くなる)、*cuigatta* (強かった) でも 2 型である。関連して言うと、先の *omosje* も同じく *omosji* の形も可能である。*omosjigatta* などの活用形もある。この *sji* は標準語のシと全く同じ音で、他の場合と違ってスにはならない。方言形の中に、こういう形でシが存在するのである。上記のシェの存在と同じである。「言う」の方言形に *sjiu* もある(母は *sjeu*)。

この文体の問題は、特に融合形が問題となる形容詞の方言調査にも絡んで来る。調査表を見ながら答える場合に、どの文体層を頭に置いているかが話者によって異なるのみならず、項目によって、さらにはその時々によっても異なり得ると考えられるからである。逐一こちらから融合形を提示して確認をした場合には回答が変わって来るかもしれないと書いた理由であるが、その場合でも、それらの具体的な文体層の位置づけまでは確定できないまま残る可能性も十分ある。その辺が外部調査の限界なのかもしれない。

もう 1 つ、「文体と音韻解釈の問題」を取り上げよう。*ke~pu.te*, *ju~pu.te* (煙たい。後者は「燻る」に由来)、*mi~cu.ke* (短い) など、前鼻音化無声子音の例が各地で記録されている点である(今、母音の細かい差は問題としない)。前鼻音化有声子音の出る環境で続く母音が無声化した場合(従って、その母音に続く子音は無声子音で、そのあとに続く母音は非狭母音)にこれが生ずる。

これをどう解釈するかは懸案であった。前鼻音を持つ東北方言の子音体系については、標準語と同じ清濁の2系列（たとえば、t-と-d-が/t/, d-と-ḍ-が/d/）を設ける解釈と、音声実質に応じた/t//d//ḍ/の3系列を設ける解釈とが対立していたが、母語話者として2系列案は最初から論外であり、批判の対象とすらしてこなかった。その点はいささかも迷いが無いが、問題は前鼻音化無声子音をどうするかである。

前鼻音化無声子音は、こと形容詞に限らず、名詞でも ku<sup>~</sup>pi.konoru（首っこ乗り、肩車。Cf. ku<sup>~</sup>bi, -ko は指小辞）、mi<sup>~</sup>cu.ko（水っこ。Cf. mi<sup>~</sup>cu.ko 道っこ、名前の光子、美智子）等々があり、動詞にも ka<sup>~</sup>pu.keru（かぶける、かびる）、ko<sup>~</sup>cu.kureru 4（こじくれる、こじれる）などがある。

ka<sup>~</sup>pu.keru と ka<sup>~</sup>bukeru の両方が言えて、発音は明らかに違うことが意識されるので別音素と見るとなると、/ḅ/, /ḥz/ と対立する /ḅp/, /ḥc/ を設けざるを得なくなる（/ḥt/ は母音が i/u である以上、また、/ḥk/ は /ḥg/ が鼻濁音の ng になっていて存在しない以上、ありえない）。そうすると4系列認めることになる。あるいは、それを避けるためには、子音は2系列とする代わりに、5つ（古い世代では6つ）の母音に対してそれぞれ鼻母音音素を設けなければならないことになる。この点が問題なのであった。

この解釈に、「文体」の概念を取り入れたいと思う<sup>(3)</sup>。結論から言うと、ke<sup>~</sup>pu.te, ju<sup>~</sup>pu.te（煙たい）、mi<sup>~</sup>cu.ke（短い）なども/ke<sup>~</sup>bute, ju<sup>~</sup>bute, mi<sup>~</sup>zuke/の有声前鼻音子音音素と解釈し、古い文体レベルであることを示す場合に無声化規則を適用した結果が無声の前鼻音子音となって実現する、と見るのである。無声化規則を文体規則と位置付ける案である。ka<sup>~</sup>pu.sjeru（被せる）の場合は/ka<sup>~</sup>buseru/で、古い文体ゆえに/se/も sje となる。通常の文体では、ka<sup>~</sup>buseru である。

ここで改めて標準語の母音の無声化の音韻論的扱いを振り返ると、これまでは明示的な論拠も示されないままに同一音素と扱ってきたと思われる。しかし、これも、同一音素と解釈した上で、ka.tana（刀）のような任意的な場合<sup>(4)</sup>はもとより、ki.ta（北）、ku.sa（草）などのように義務的に無声化する場合でも、文体上の無声化規則がそれぞれ任意的、義務的に適用され

たものと見るべきだと考える。無声化しなくても意味理解に影響はしないが、無声化する方が歯切れの良いスタイルと位置付けられよう。

前鼻音子音の場合も、文体の中身こそ異なれ、それと類似した扱いで、ただ、東北方言の場合は、その無声化が母音のみならず、その直前の前鼻音化有聲子音にまで及ぶ点で、適用範囲（適用領域）が異なることになる。

この解釈に対して問題となるのは、たとえば風間浦方言で/ke<sup>h</sup>bute/が対象が「煙」の場合は一般に無声化するのに対して、「人」の場合は無声化せず、音形の違いが意味・用法の違いとなって現われている以上、両者は対立すると考えられるのではないか、という点であろう。しかし、この場合は、無声化する方が本来の伝統的な方言であり、「煙たい人」の言い方は後から入って来たもので、そのために古くからある用法には無声化が適用されるのに対して、後から入った形には適用されないため、とみなすことが可能だと考える。

このように解釈すれば、/p, b, <sup>h</sup>b; t, d, <sup>h</sup>d/（と/k, g/）という、従来の3系列案のままでよく、母音についても変更の必要はないことになる。

本節の最後に、文体と直接関わることではないが、意味、ならびにそれに関わる音韻解釈について補足しておく。

「醜い[見たくない]」というやや便宜的な見出しを立て、そこに岩手方言でmidagunE 4を掲げておいたが、意味は少しずれて、《不美人》の意で、また振る舞いが《みっともない》意でも日常的によく使われるものである。これは、形としては「見たくない」に対応する。《見たいと思わない》意である。しかし、この形で1つの形容詞となっていることがアクセントからもはっきりする。その活用も、midagunE\_mono 4+2, midagunEgu\_naru 4+1, midagunEgu\_nE 4+1, midagunEkute 4, midagunEgatta 4である。標準語の「みっともない」も「見とうもない=見たくもない」に由来することを参照。

それに対して、希望の意味の「見たくない」は古い世代はmitagu\_nE 2+1である。希望の助動詞「たい」はどの動詞に付いても絶対に有聲化せず、mitE（見たい）など、-tのままである。従って、アクセントは異なるものの、midagunEとmitagunEは/d/と/t/で対立する例となる。それに対して、たとえば「淫ら」はmi<sup>h</sup>dara 2である。これも3系列説の論拠となる。

この mitagu\_nE も、動詞の活用形の一つなので、私の場合は語幹の統一をして「見たい」を mirute (見るとい) に変え、この形のまま mirutegu\_ne 3+1 (見るといく\_ない) と言い、mirutegu\_naru 3+1 (見るといく\_なる)、mirutegatta 3 (見るといった)、mirutegu\_negatta 3+2 (見るといく\_ない) などで活用させる。それに対して形容詞の midagune は動詞から離れて別語になっている関係で語幹の統一作用は働かず、常にこの midagune の形で使われる。なお、類例を含め、上野 (1996) も参照。

最後に、omosje の意味について一言すると、私の方言では「うれしい、楽しい、面白い」の区別がなく、すべて「面白い」に当たる形で表現する。希望校に合格したような「うれしい」場合でも「面白い」と表現する。<sup>(5)</sup>

## 6. アクセント

類別語彙の形容詞は、無核型 (0) と最終音節に核のある型 (-1 型) の 2 つからなる。八戸方言を中心に、最終音節の母音が融合しない形も記録してあるが、その場合でもその CVV の「音節」に核がある。シク活用の語末長母音でも同様である。特殊な音節構造の「多い」だけが 1 型で例外である。ただし、普段あまり使う形ではなく、「一杯だ」や副詞で表わす。

「類」との対応も、第 1 類が無核型、第 2 類が有核型で、例外は、よく知られている「広い」(第 2 類) の無核型と、「むなしい」(第 1 類) の有核型だけである。その中であって、「うまい」が《上手》と《美味》の意味によって 2 型と 0 型ではっきりと使い分けられているのが目を引く。これは全地点に当てはまり、さらには津軽方言でも同様である。この区別は厳然としており、手作り料理を御馳走になった際にも、作り方がうまいのか、料理がおいしいのかをアクセントではっきり区別する。この区別のない標準語の発音を聞くと、そのどちらの意味で使っているのか分からず、はっきりさせてほしいと思ってしまう。

追加語彙まで広げても基本の 2 つの型は同じであるが、5 モーラ語以上には、語末核以外の有核型の (4) が出て来る。

(4) 語末核以外の有核型

「小汚い（こきたない）」の1型（風間浦を除く）

「生臭い」の1型（八戸）

「小うるさい」（とその「-ない」形）の2型（全地点）

「おとなしい」の2型（併用を含む）（岩手側）

「気難しい」の2型（雫石と八戸。雫石は併用で）

「物足りない」の3型（併用を含む）（岩手側）

「小きたない」（連濁を起こさない）と「小うるさい」のアクセントの違いは、前者が「○狭広-」という母音の配列構造を持っているのに対して、後者はそれ以外（「○狭狭-」）であることによる。「気難しい」は「気」が無核型なので、無核型が本来の型と考えられるが、おそらく強調的な意味が関与して新しく有核型が生じた際に、やはり「○狭狭-」であるために2型になったものと考えられる（調査項目にないが「小難しい」も、私は2型である）。

追加語彙中の無核型と有核型の割合は、(5)に示すように、有核型が優勢である。金田一語彙でも同様に、形容詞（さらには動詞も含む「用言」）は有核型が多数を占める。

(5) 追加語彙中の無核型の割合

3モーラ語：14例中4例

4モーラ語：46例中13例（八戸のみ有核の3例も含む）

5モーラ語：40例中5例

次に地域差を見る。わずか5地点のためか、明瞭な差は出ないが、(6)が注意を引く。

(6) 地域差

「毛深い」の3型、「青白い」の4型（ともに青森側、および無核型との併用で私。他は0型）

「きな臭い」の0型（青森側。他は4型）

「寝苦しい」の4型専用（青森側。他は0型との併用）

「物足りない」の5型専用（青森側。他は3型との併用）

このうち、「毛深い」と「寝苦しい」の前部要素は無核型であり、「青白い」の「青」は有核型であるものの複合語ではしばしば無核型になる特殊例であることから、これらは元は無核型で、青森側で新たに有核化したものと考えられる。私もまた（青森とは独立に）新しい動向の影響を受けているのであろう。

## 7. 活用形のアクセント

連体形の「～もの2」、連用形の「～なる1」、否定形の「～ない1」の2単位形の後半部分はすべての方言で一致しているので、これらを除いて見ていく。

まず、2モーラ形容詞は、岩手側は「濃い」は1型で一貫し、「ない」と「良い」は過去形だけが2型になる点異なる（「濃かった」の2型は不可）。八戸はこれらの過去形も1型である。風間浦村は、「濃かった」が2型で出る点が異なり、また、「ない」の過去形が、nakuta 1型と、naku\_tatta 1+3という独自の形を持つ。後者は、「なくて\_あった 1+3」に由来する形である。

なお、「良くない」のうち、一般に1+1の2単位形と異なる1単位形の3型の「～子」は、「いたずらなどをして迷惑をかける、不良」の意味で主に子供に対して使う別の形容詞となっている（igune\_warasu 3+3など、i(:)\_warasu 1+3「良い子」の反対）。

「赤い」と「白い」に関しては5方言とも差がなく、「白い」は2型で一貫し、「赤い」は0型を基本とし過去形のみ5型である。過去形は「赤く\_あった」に由来し、「ある1」の過去形「あった3」の核が反映したものである。それ以上長い形の活用形は未調査であるが、私の場合、無核型の「怪しい、難しい」等は、やはり過去形のみ最後に核が来て他の活用形は無核、有核型は、語末核以外も含めてその核の位置のまま一貫する。おそらく他の地域で

も同様であろう。

アクセント以外で注目すべきは「語幹の統一」という変化である（5節の後半も参照）。岩手側で顕著で、特に私の場合、形容詞の終止形で統一をし、対応形で言えば、「赤くなる、赤くない、赤くて、赤かった」という形になっている。この中で唯一統一されていない「濃い」でさえ、「濃くない、濃くて、濃かった」は言えるようになっている。明治21年生まれ祖母は、nE, nagu\_naru, nakute, nagatta; agE, agagu\_naru, agagu\_nE, agakute, agagatta 等で、nEgu\_naru, nEkute, agEgatta などとは言わなかった。祖母の方が（終止・連体形以外は）標準語的であったのである。その後の世代が語幹の交替をやめて統一する変化を起こしたことが分かる。

青森側はその統一化の進行途上にあるが、単語によって歩みが異なっている。

## 注

- (1) 総務省に届けられている正式名称は「しずくいしちょう」だということで、全国放送でもこれが使われるが、私は子供のときから「しずくいしまち」としか言ったことがない。ある町長選立候補者の演説で「-ちょう」と言うのを聞いて変な言い方をする人だと思った記憶がある。（昭和30年に周辺の村を合併しているが、あるいはそのときに読み方を変えたのかもしれない。）「しもまち」も行政名としては変更されているが、通称として「上町（かみまち 1）、中町（なかもまち 3）、下町（しもまち 0）」が今でも使われている（「上」1、「中」1、「下」0のアクセントに注意。これらはそのまま「上町」などの略称としても使われている。「上町」1は「○狭広○」の構造）。
- (2) 拙論（2017: 2）に「高校は八戸に」としたのは私の誤りで、「高校はむつ市田名部（たなぶ）に」と訂正する。
- (3) この考えのヒントは、服部四郎（1989[1968]: 329）の朝鮮語大邱方言に関する次の短い記述から受けた。「なお、/saːni/《山が》に対しては、[sani]という発音もある。そこで、[sani]と[säi], [onwul]と[oŷl]は、それぞれ同一の音韻構造/saːni/と/oːmʉr/に該当するけれども、異なる文体的レベル（stylistic level）に属する、とする。この見解はかなり portée の大きいものだが、ここでは詳述できない。」ただし、私の知るかぎり、服部がその後この問題を詳述したことはない。講義でも聞いたことはなく、私なりに捉えたものである。

- (4) どこまでを任意的と見るかは人によって異なる可能性がある。私は東京人ではないが無声化にはうるさく、「しっかり、きっちり」のシ、キを無声化させない発音を聞くとき大きな違和感を感じる。なお、「キ。タのキは必ず無声化する」という文の後のキは、音声学の時間なら無声で、通常は有声で発音するであろう。
- (5) ちなみに、奄美徳之島の浅間方言では、「うれしい」と「楽しい」の区別はなく [hora: haN (誇らしい) で、そして「面白い」は「珍しい」と区別なく、mIzIra: [haN (珍しい) で表現する。

### [参考文献]

- 上野善道(1991)「青森市方言の形容詞のアクセント」『アジア・アフリカ文法研究』19: 45-81.
- 上野善道 (1996)「残存形式」亀井孝・河野六郎・千野栄一編『言語学大辞典 6 術語編』三省堂: 618-619.
- 上野善道 (2017)「青森県南部方言の名詞のアクセント資料」『国語研究』80: 1-22.
- 服部四郎(1968[1989])「朝鮮語のアクセント・モーラ・音節」『ことばの宇宙』3(5): 84-90.  
(『服部四郎論文集 第3巻 アルタイ諸言語の研究 Ⅲ』三省堂、1989: 319-333 に所収)
- 平山輝男編著(1982)『北奥方言基礎語彙の総合的研究』桜楓社.
- 森下喜一編(1986)『岩手方言アクセント辞典』第一書房.

[付記]ご教示くださった話者の皆さんに御礼を申し上げます。なお、母に聞いたのは癌でこの世を去る半年前からで、すでに食事はほとんど喉を通らなくなっていたが、最後はベッドに寝たまま答えてくれた。本稿で追記した「-ない」形容詞など、内省に不安を感じる項目にぶつかると、いつでも遠慮なく聞けた存在のありがたみを痛感する。

本稿は、2018年度 JSPS 科学研究費16K02619の研究成果である。同時に、国立国語研究所共同研究プロジェクト「対照言語学の観点から見た日本語の音声と文法」(プロジェクトリーダー: 窪菌晴夫)、並びに「日本の消滅危機言語・方言の記録とドキュメンテーションの作成」(プロジェクトリーダー: 木部暢子)の研究成果の一部でもある。

類	項目	盛岡	雫石(母)	雫石	八戸	風間浦
2k2	濃い	1 (koi)	1 (koi)	1 (koi)	1 (koi)	1 (koi)
2k2	酸い [酸っぱい, 酸っかしい]	x[suppE, sukkE 3]	x[suppE, sukkE 3]	x[suppe, sukke 3]	x[sukke: 3]	x[suke 2, suppe 3]
2k2	無い	1 (nE)	1 (nE)	1 (ne)	1 (ne)	1 (ne)
2k2	良い	1 (e:)	1 (e(:))	1 (i(:))	1 (e:)	1 (i:)
3k1	赤い	0 (agE)	0 (agE)	0 (age)	0 (age)	0 (age)
3k1	浅い	0 (asE)	0 (asE)	0 (ase)	0 (ase)	0 (ase)
3k1	厚い	0 (azu)	0 (azu)	0 (azu)	0 (azui)	0 (azi)
3k1	甘い	0 (amE)	0 (amE)	0 (ame)	0 (ame)	0 (ame)
3k1	荒い [粗]	0 (arE)	0 (arE)	0 (are)	0 (are)	0 (are)
3k1	薄い	0 (usu)	0 (usu)	0 (usu)	0 (usui)	0 (usi)
3k1	遅い	0 (osje)	0 (ose)	0 (ose)	0 (ose)	0 (ose)
3k1	重い [重たい]	m0 (omoi) [omodE 0]	m0 (omoi) [omodE 0]	m0 (omoi) [omode 0]	m0 (omoi) [omode 0]	m0 (omoi) [omo(˘)de 0]
3k1	堅い [硬, 固]	0 (kadE)	0 (kadE)	0 (kade)	0 (kade)	0 (kade)
3k1	軽い [軽こい]	x[karuke 0]	x[karuke 0]	m0 (karui) [karuke 0]	0 (karoi) (OK) [karukoi 0]	0 (kari) [karuke 0]
3k1	暗い	0 (kurE)	0 (kurE)	0 (kure)	0 (kure)	0 (kure)
3k1	つらい	0 (curE)	0 (curE)	m0 (cure), jurugune (緩くない) 2	0 (cure)	0 (cure)
3k1	遠い	0 (to(:)e)	0 (toe)	0 (toi)	0 (toe)	0 (toi)
3k2	青い	2 (ae)	2 (awe)	2 (a(w)e)	2 (aoi)	2 (ae, aoi)
3k2	熱い(湯) [暑]	3 (accu) [azu 2]	3 (accu)	3 (accu) [accu 3, nugi 2]	3 (accui, acci)	3 (acci)
3k2	痛い	2 (idE)	2 (idE)	2 (ide)	2 (ide)	2 (ide)
3k2	旨い (上手:美味)	2:0. (NmE)	2:0. (NmE)	2:0. (Nme)	2:0. (Nme)	2 (ume, zjoNzu 3):0(Nme)
3k2	多い [一杯だ]	1 (oe) [eppE 3]	1 [eppE 3]	1 (oi) [ippe 3]	1 (zuppari 3)	1 (oi)
3k2	惜しい	2 (osu)	2 (osu)	m2 (osu), mottene 4, mottengane 5	2 (osi:)	2 (osi)
3k2	かゆい	2 (kaju)	2 (kaju)	2 (kaju)	2 (kae)	2 (kai, kaju)
3k2	からい (辛子:塩)	2 (karE:x)	2 (karE:x)	2 (kare:x, 塩・醬油には言わない)	2 (kare:x)	2 (kare:x)
3k2	臭い	2 (kusjE)	2 (kusE)	2 (kuse)	2 (kuse)	2 (kuse)
3k2	黒い	2 (kure)	2 (kure)	2 (kure)	2 (kure)	2 (kure)
3k2	こわい (怖:疲れ)	m2 (koE), oNkanE, okkanE 0:erE 2	2 (kowE), okkanE, oNkanE 0:kowE	m2 (ko(w)e), okkane, oNkane 0:x	2 (koe)	2 (koe, 御飯の硬いのにも?)
3k2	寒い	2 (samu)	2 (samu)	2 (samu)	2 (sa`bui)	2 (sa`bi)
3k2	渋い	2 (su`bu)	2 (su`bu)	2 (su`bu)	2 (sibui)	2 (si`bi)
3k2	白い	2 (sure)	2 (sure)	2 (sure)	2 (siroi)	2 (sire)
3k2	すごい	2 (sunge)	2 (suNnge 3)	2 (suNnge 3)	2 (sunge)	2 (sunge)
3k2	狭い [狭こい]	2 (sjemE) [sjemake 3]	2 (semE)	2 (seme) [semake 3]	2 (seme) [semakoi 3]	2 (seme) [semake 3]

3k2	高い	2(tagE)	2(tagE)	2(tage)	2(tage)	2(tage)
3k2	近い	2(cukE)	2(cukE)	2(cuke)	2(cike)	2(cike)
3k2	強い	2(cue)	2(cue)	2(cui, cue)	2(cue)	2(cue)
3k2	長い	2(nangE)	2(naNngE 3)	2(naNngE 3)	2(naNngE 3)	2(nange)
3k2	苦い	2(nungE)	2(nungE)	2(nunge)	2(ninge)	2(ninge)
3k2	鈍い	2(nu <sup>~</sup> bu)	2(nu <sup>~</sup> bu)	m2(nu <sup>~</sup> bu)	2(ni <sup>~</sup> bui)	2(ni <sup>~</sup> bui)
3k2	早い [速]	2(ha(j)E)	2(hajE)	2(ha(j)e)	2(haje)	2(hae)
3k2	低い	2(higu)	2(higi)	2(higi)	2(higui)	2(higui)
3k2	広い	0(hire)	0(hire)	0(hire)	0(hiroi)	0(hire)
3k2	深い	2(hukE)	2(hukE)	2(huke, hukke 3)	2(huke)	3(hukke)
3k2	太い	2(hute, butte 3)	2(hute, hutte 3)	2(hute, hutte 3)	2(hute)	2(hute)
3k2	古い [古しい]	2(huru) [hurusu 3]	m2(huru) [hurusu 3]	m2(huru) [hurusu 3]	2(hurui) [(古)3]	m2[hurusu 3]
3k2	欲しい	2(hosu)	2(hosu)	2(hosu)	2(hosi:)	2(hosi)
3k2	細い	2(hosje)	2(hose)	2(hose)	2(hose)	2(hose)
3k2	もろい	2(more)	m2(moroi)	m2(moroi), jo(w)e 2	2(moroi)	m2(moroi)
3k2	安い	2(jasu)	2(jasu)	2(jasu)	2(jasui)	2(jasi)
3k2	ゆるい [ゆるしい]	2(juru) [jurusu 0]	2(juru) [jurusu 0]	2(juru) [jurusu 0]	2(jurui) [x] [jurukoi 3]	2(jurui) [x] [jurukoi 3]
3k2	若い	2(wagE)	2(wagE)	2(wage)	2(wage)	2(wage)
3k2	悪い	2(waru)	2(waru)	2(waru)	2(warui)	2(wari)
3kz	偉い(偉大・被れ)	2(erE)	2(erE)	2(ire:x)	2(ere)	2(ere:x)
3kz	きつい	0(kizu)	0(kizu)	0(kizu)	0(kizui)	0(kizi)
3kz	くどい	0(ku <sup>~</sup> de)	0(ku <sup>~</sup> de)	0(ku <sup>~</sup> de)	0(ku <sup>~</sup> doi)	0(ku <sup>~</sup> de)
3kz	ずるい	2(zure)	2(zure)	2(zure)	2(zuroi)	2(zuri, zure)
3kz	だるい	2(daru)	2(daru)	2(daru)	2(darui)	2(daru, dare)
3kz	でかい	3(dekkE)	3(dekkE)	3(dekke)	3(dekke)	2(dege) (OK)
3kz	ぬるい	2(nuru)	2(nuru)	2(nuru, nure)	2(nurui)	2(nure, nurui)
3kz	眠い [眠たい]	m0[ne <sup>~</sup> pu.te 0]	m0[ne <sup>~</sup> pu.te 0]	m0[ne <sup>~</sup> pu.te 0]	m0[ne <sup>~</sup> pu.te 0]	m0[nemute, ne <sup>~</sup> pu.te 0]
3kz	のろい	2(nore)	2(nore)	2(nore)	2(noroi)	2(nore)
3kz	ひどい	2(hi <sup>~</sup> de, hiNde 3)	2(hiNde 3)	2(hiNde 3)	2(hiNde 3)	2(hi <sup>~</sup> de)
3kz	まずい(味) [うまくない]	2(ma <sup>~</sup> zu)	2(ma <sup>~</sup> zu)	2(ma <sup>~</sup> zu) [Nmegu_ne 0+1]	2(maNzui 3)	2(ma <sup>~</sup> zi) [magune 3]
3kz	丸い [丸こい]	0(marui) [maruke 0]	0(marui) [maruke 0]	m0(marui) [maruke 0]	0(marui) [marukoi 0]	0(marui) [marukoi, -ke 0]
3kz	むごい	m2(munge), mu <sup>~</sup> zje (むぞい) 0	m2(munge), mu <sup>~</sup> zje 0	m2(mungoi), mungotarasu 5	2(mungoi)	x
3kz	弱い	2(joE)	2(jo(w)E)	2(jo(w)e)	2(jowe)	2(jowe)
4k1	怪しい	0(ajasu)	0(ajasu)	0(ajasu)	0(ajasi:)	0(ajasi)
4k1	悲しい	0(kanasu)	0(kanasu)	0(kanasu)	0(kanasi:)	0(kanasi)
4k1	むなしい	3(munasu)	m3(munasu)	3, 0. (munasu)	3(munasi:)	x

4k1	優しい [易]	0(jasasu)	0(jasasu)	0(jasasu)	0(jasasi:)	0(jasasi)
4k1	よろしい	m3(i: 1)	m3(e: 1)	m3(i: 1)	m3(e: 1)	x(i: 1)
4k2	うれしい	3(uresu)	m3(uresu), omosje 3	m3(uresu), omosje 3	3(uresi:)	x
4k2	厳しい	3(ki`bisu)	3(ki`bisu)	3(ki`bisu)	3(ki`bisi:)	3(ki`bisi)
4k2	悔しい	3(kujasu)	3(kujasu)	3(kujasu)	3(kujasi:)	3(kujasi)
4k2	苦しい	3(kurusu)	3(kurusu)	3(kurusu)	3(kurusi:)	3(kurusi)
4k2	詳しい	3(kuwasu)	3(kuwasu)	3(kuwasu)	3(kuwasi:)	3(kuwasi)
4k2	さびしい [さみしい]	3(sa`bisu)	3(sa`bisu)	3(sa`bisu) [x]	3(sa`bisi:), gijane 3	3(sa`bisi)
4k2	親しい	3(sutasu)	m3(sutasu)	m3(sutasu)	3(sitasi:)	3(sitasi)
4k2	涼しい	3(su`zusu)	3(su`zusu)	3(su`zusu)	3(su`zusi:)	3(su`zusi)
4k2	正しい	m3(ta`dasu)	3(ta`dasu)	3(ta`dasu)	3(ta`dasi:)	3(ta`dasi)
4k2	楽しい	3(tanosu), omosje 3	3(tanosu)	m3(tanosu), omosje 3	3(tanosi:)	3(tanosi)
4k2	激しい	3(hangesu)	3(hangesu)	3(hangesu)	3(hangesi:)	3(hangesi)
4kz	明るい	0(agaru)	0(agaru)	0(agaru)	0(agarui)	0(agari)
4kz	危ない	0(a`bunE)	0(a`bunE)	0(a`bune)	0(a`bunai)	0(a`bune)
4kz	うるさい (音,味に) [うるさ(い)ない]	3(urusjE) [(希)-sjEnE 4]	3(urus(j)E)	3(uruse, 味は新) [-sjene 4]	3(uruse) [urusasine 5]	3(uruse) [urusasine 5, sjasine (せわしない) 3]
4kz	おいしい	m0(NmE 0)	m0(NmE 0)	m0(Nme 0)	m3(Nme 0)	m0((N)me 0)
4kz	大きい [おっきい]	3(okki)	3(okki)	3(okki)	3(okki, okke:)	3(okki)
4kz	おかしい (変,興味) [おかしない]	3(ogasu) [ogasanE 4]	3(ogasu) [ogasanE 4]	3(ogasu) [ogasune 4]	3(ogasi:)	3(ogasi) [ogasine 4]
4kz	重たい	0(omode)	0(omode)	0(omode)	0(omode:)	0(omode)
4kz	かわいい [めごい, め んこい]	m3[menge 2]	m3[meNke, meNnge 3]	m3[meNke 3]	3[meNngoi 3]	[meNkoi 3]
4kz	黄色い	0(kiropE, -pe)	0(kiroi)	0(kiroi, kire)	0(kiroi)	0(kiroi)
4kz	きたない (汚れ,やり 方)	3(kitanE)	3(kitanE)	3(kitane, kitanasune 5, kokitane 1, 3)	3(kitane, kokitane 1)	3(kitane)
4kz	气まずい	0(kima`zu)	0(kima`zu)	0(kima`zu)	3(kimazui)	0(kima`zui)
4kz	気安い	0(kijasu)	0(kijasu)	0(kijasu)	0(kijasui)	0(kijasui)
4kz	毛深い	0(ke`bugE)	0(ke`bukE)	0, 3. (ke`buke)	3(ke`pu, kai)	3(ke`bugai)
4kz	煙たい (煙,人)	0(kemutE), ju`pu, tE 3	0(ke`pu, tE), ju`pu, tE 3	0(ke`pu, te), ju`pu, te 3	0(ke`pu, te)	0(ke`pu, te; ke`bute)
4kz	けわしい [けわしない]	3(kewasu) [(希)kewasune 4]	m3(kewasu)	3(kewasu) [kewasune 4]	3(kewasi:)	3(kewasi) [kewasine 4]
4kz	細かい	3(komakE)	3(komakE)	3(komake)	3(komakai)	3(komake), kome 2
4kz	四角い	3(sukagui)	3(sukagui)	3(sukagui, sukadu`da 4)	3(sikagui)	3(sikagui)
4kz	しつこい	3(sucuke)	m3(ku`de 0)	m3(sicukoi)	3(sicukoi)	3(sicukoi)
4kz	しぶとい	3(su`bude)	?	m3(si`butoi)	3(si`butoi)	3(si`bute)
4kz	しょっぱい	3(sjoppE)	3(sjoppE)	3(sjoppe)	3(sjoppe:)	3(sjoppe)
4kz	少ない	3(sugunE)	3(sugunE)	3(sugune)	3(sugune:)	3(sugune)

4kz	酸っぱい [酸っかい]	3(suppE) [sukke 3]	3(suppE) [sukke 3]	3(suppe) [sukke 3]	3(suppe): [sukke: 3]	3(suppe) [suke 2]
4kz	すばやい	3(su`bajE)	m3(hajE 2)	m3(su`ba(j)e)	3(su`bajai)	3(su`ba(j)e)
4kz	冏たい	3(zu`bude)	m3(no`bute ?)	3(zu`bude)	3(zu`butoi)	3(zu`bute)
4kz	鋭い	m3(suru`doi)	x	m3(suru`doi)	3(surudoi)	m3(surudoi)
4kz	切ない	3(sezunE)	3(sezunE)	3(sezune)	3(hezune)	3(hezune)
4kz	せわしい [せわしない]	3(sewasu) [sewasunE 4]	3(sewasu) [sewasunE 4]	3(sewasu) [sewasune 4]	3(sewasi): [sewasinai 4]	3(sewasi) [sewasine 4]
4kz	たやすい	0(tajasu)	m0(tajasu), zjosanE(造作ない) 3	m0(tajasu), zjosane 3	0(tajasui)	x(zjosa_ne 1+1) (OK)
4kz	小さい [ちっちゃい]	3(cuccjE)	3(cuscE, pEkko, bEkko 3)	3[cuse, pekk 3] [cucje 3]	3(cjakkoi)	3(cjakke, cjakkoi)
4kz	近しい	3(cukasu)	m3(cukasu)	m3(cukasu)	3(cikasi):	3(cikasi)
4kz	冷たい (水:態度)	h(j)akke 3: cumedE 0	h(j)akke 3: cumedE 0	hjakke 3: cumedE 0	hjakko 3: cumete 0	sjakko, hjakko 3: cumedE 0
4kz	手ごわい	3(tengoE)	m3(tengowai)	3(tengo(w)e)	3(tengowai)	3(tengoe)
4kz	どぎつい	0(dongizu)	m0(dongicu)	m0(dongicu, -zu)	0(dongicui)	m0(dongicui)
4kz	根強い	3(ne`zue)	3(ne`zue)	3(ne`zue)	3(nezujoi)	3(ne`zui)
4kz	眠たい	0(ne`pu.teE)	0(ne`pu.teE)	0(ne`pu.te)	0(ne`pu.te)	0(ne`pu.te)
4kz	はかない	3(haganE)	3(haganE)	3(hagane)	3(haganai)	3(hagane)
4kz	平たい	0(hiratE)	m0(hiratE), taira`da 0	m0(hirate), taira`da 0	0(hiratai)	0(hirate)
4kz	分厚い	m0(buazu)	m0(buazu)	0(buazu)	3(buacui)	0(buazi)
4kz	程よい	m3(ho`dojoi)	m3(ho`dojoi)	m3(ho`dojoi)	m3(ho`dojoi)	3(ho`doe)
4kz	貧しい	3(ma`zusu)	0(ma`zusu)	3(ma`zusu)	3(ma`zusi):	3(ma`zusi)
4kz	まぶしい	3(ma`busu), macupe 3	3(ma`busu)	3(ma`busu)	macuposi: 4, macuposine: 5	3(ma`busi), macupasi 4, macupasine 5
4kz	短い	3(mi`cu.kE)	3(mi`cu.kE)	3(mi`cu.ke)	3(mi`ci.kai)	3(mi`ci.ke)
4kz	醜い [見たくない]	m3(minigui) [midagunE 4]	m3(minigui) [midagunE 4]	m3(minigui), [midagune 4]	3(minigui) [mittagune 5]	3(minigui) [mittagune 5]
4kz	めでたい	3(me`detE)	3(me`detE)	3(me`dete)	3(me`detai)	3(me`dete)
4kz	めめしい	m3(memesu)	m3(memesu), onangomitE`da 5	3(memesu)	3(memesi):	m3(memesi)
4kz	わびしい	3(wa`bisu)	m3(wa`bisu)	3(wa`bisu)	3(wa`bisi):	m3(wa`bisi)
5kz	青白い	0(ao`zure)	0(ao`zure)	4, 0. (ao`zure)	4(ao`ziron)	4(ao`zire)
5kz	味気ない	4(a`zukenE)	4(a`zukenE)	4(a`zukene, a`cu.kene)	4(a`zikene):	4(a`zikene) 味そのものが ないのは a`zike_ne 3+1
5kz	新しい [新しい]	4(adarasu) [(希)adarasunE 5]	4(adarasu)	4(adarasu) [adarasune 5]	4(nisi: 3)	4(adarasi) [adarasine 5]
5kz	あったかい [暖:温]	4(attagE)	4(attagE)	m4(attage), 天気は nugi 2	4(attage):	(nugui 2)
5kz	あっけない	4(akkenE)	4(akkenE)	4(akkene)	4(akkenai)	4(akkene)
5kz	ありがたい	4(aringadE)	4(arungadE)	4(arungade)	4(aringade):	4(aringade)

5kz	忙しい [忙しい]	4(isongasu) [isongasunE 5]	4(isongasu) [isongasunE 5]	4(isongasu) [isongasune 5]	4(isongasi) [isongasinai 5]	4(isongasi) [isongasine 5]
5kz	痛ましい [痛ましい]	4(idamasu) [-nE 5]	4(idamasu) [-nE 5]	4(idamasu) [-ne 5 もったい ない意]	4(idamasi) [-ne 5]	4(idamasi) [-ne 5 もったいない は idawasi 4, -ne 5]
5kz	薄暗い	0(usungurE)	0(usungurE)	0(usungure)	0(usungurai)	0(usungure)
5kz	恐ろしい [恐ろしい]	4(osorosu) [osorosunE 5]	4(osorosu) [osorosunE 5]	4(osorosu) [osorosune 5]	4(osorosoi) [osorosinai 5]	m4(osorosi, okkane 0) [osorosine 5]
5kz	おっかない	0(oNkanE, okkanE)	0(oNkanE, okkanE)	0(okkane, oNkane)	0(okkane:)	0(okkane)
5kz	おとなしい [おとなしい]	2,4.(odonasu) [x]	2,4.(odonasu)	4,2.(odonasu) [-ne 5, 2]	4(odonasi: [x])	4(odonasi) [-ne 5]
5kz	おめでたい	4(ome~detE)	4(ome~detE)	4(ome~dete)	4(ome~dete)	m4(me~dete 3)
5kz	おもしろい	4(omosure. omosje 3)	4(omosje 3)	4(omosje 3. 嬉 しい, 楽しいも)	4(omosire)	4(omosire)
5kz	きな臭い	4(kinakusjE), ko~bakekusjeE 0	4(kinakusE)	4(kinakuse)	0(kinakusai)	0(kinakuse)
5kz	義理堅い	4(giringadE)	4(giringadE)	4(giringade)	4(giringade:)	4(giringade)
5kz	くだらない	0(ku~daranE)	0(ku~daranE)	0(ku~darane)	0(ku~darane:)	0(ku~darane)
5kz	けちくさい	4(kecukusjE)	4(kecukusjE)	4(kecukuse)	4(kecikuse:)	4(kecikuse)
5kz	小うるさい [-ない]	2(kourusjE) [kourusjEnE 2]	2(kourusjE) [kourusjEnE 2]	2(kouruse) [kourusene 2]	2(kourusai) [kourusasine 2]	2(kouruse) [-ne, kourusasine 2]
5kz	小汚い	1(kokitane)	1(kokitane)	1,3.(kokitane)	1(kokitane)	3(kokitane)
5kz	焦げ臭い	4(kongekusjE)	4(kongekusE)	4(kongekuse)	4(kongekuse:)	4(kongekuse)
5kz	酒臭い	0(sagekusjE)	0(sagekusE)	0(sagekuse)	0(sagekuse:)	0(sagekuse)
5kz	冷めやすい (風呂気 持)	4(samejasu)	4(samejasu)	4(samejasu)	4(samejasui)	m4(samejasui)
5kz	騒がしい [騒がしい]	4(sawangasu) [-nE 5]	4(sawangasu) [-nE 5]	4(sawangasu) [-ne 5]	4(sawangasi: [-ne: 5])	4(sawangasi) [-ne 5]
5kz	そっけない	4(sokkenE)	4(sokkenE)	4(sokkene)	4(sokkenai)	4(sokkene)
5kz	頼もしい [頼もしい]	4(tanomosu) [(希)-nE 5]	4(tanomosu)	4(tanomosu) [-ne 5]	4(tanomosi:)	4(tanomosi)
5kz	だらしない	4(darasunE)	4(darasunE)	4(darasune)	4(darasinai)	3,4.(darasine) (3は3+1が)
5kz	つまらない	4(cumaranE)	4(cumaranE)	4(cumaranE), omosjegune 3が 普	4(cumaranai)	3(cumane)
5kz	照れ臭い	4(terekusjE)	4(terekusE)	4(terekuse)	4(terekuse:)	4(terekuse)
5kz	情けない	4(nasagenE)	4(nasagenE)	4(nasagene)	4(nasagene:)	4(nasagene)
5kz	生臭い	4(namangusjE)	4(namangusE)	4(namanguse)	1(namanguse:)	4(namanguse)
5kz	憎らしい [憎たらし い] [-ない]	4(nugurasu) [nukutarasu 5, -nE 6]	4(nugurasu) [nukutarasu 5, -nE 6]	m4(nugurasu) [nukutarasu 5, -ne 6]	4(nigurasi: [nikutarasi:5] [-ne 6])	4(nigurasi) [nikutarasi:5] [-ne 6]
5kz	寝苦しい	0,4. (nengurusu)	0,4. (nengurusu)	4,0. (nengurusu)	4(nengurusi:)	4(nengurusi)
5kz	ばかきさい	4(bagakusjE), ko~bagakusje 0	4(bagakusE), koNbagakusE 0	4(bagakuse), koNbagakuse 0	4(bagakuse:)	4(bagakuse), haNkakuse 5
5kz	古臭い	4(hurukusjE)	4(hurukusE)	4(hurukuse)	4(hurukuse:)	4(hurukuse)
5kz	真っ黒い	4(makkure)	4(makkure)	4(makkure)	4(makkuroi)	4(makkure)

5kz	難しい	0(mu`zugasu)	0(mu`zugasu)	0(mu`zugasu)	0(mu`zugasi)	0(mu`zugasi)
5kz	珍しい	4(me`zurasu)	4(me`zurasu)	4(me`zurasu)	4(me`zurasi)	4(me`zurasi)
5kz	ものすごい	4(monosunge)	4(monosunge)	4(monosunge)	5(monosuNnge)	4(monosunge)
5kz	やかましい [-ない]	4(jagamasu) [-nE 5]	4(jagamasu) [-nE 5]	4(jagamasu) [-ne 5]	4(jagamasi) [-nai 5]	4(jagamasi) [-ne 5]
6kz	气難しい	0(-mu`zugasu)	0, 2. (-mu`zugasu)	0, 2. (-mu`zugasu)	2(-mu`zugasi)	0(-mu`zugasi)
6kz	ばかばかしい [-ない]	5(bagabagasu) [-nE 6]	5(bagabagasu)	5(bagabagasu) [-ne 6]	5(bagabagasi)	5(bagabagasi) [-ne 6]
6kz	物足りない	5, 3. (-tarinE)	3, 5. (-tarunE)	3(-tarune)	5(-tarinai)	5(-tarinai)
2k2	無い	1(nE)	1(nE)	1(ne)	1(ne)	1(ne)
	無いもの	1+2(nE_mono)	1+2(nE_mono)	1+2(ne_mono)	1+2(ne_mono)	1+2(ne_mono)
	無くなる	1+1(nEgu_naru)	1+1(nEgu_naru)	1+1(negu_naru)	1+1(negu_naru)	1+1(negu_naru)
	無くて	1(nEkute)	1(nEkute)	1(nekute)	1(nekute)	1(nekute)
	無かった	2(nEgatta)	2(nEgatta)	2(negatta)	1(negatta, nagatta)	1(nakuta), 1+3(naku_tatta)
2k2	良い	1(e)	1(e)	1(i)	1(e)	1(i)
	良いもの	1+2(e_mono)	1+2(e_mono)	1+2(i_mono)	1+2(e_mono)	1+2(i_mono)
	良くなる	1+1(egu_naru)	1+1(egu_naru)	1+1(igu_naru)	1+1(egu_naru)	1+1(igu_naru)
	良くない [-~子]	1+1(egu_nE) [3, 1+1. (egunE)]	1+1(egu_nE) [3(egunE)]	1+1(igu_ne), [3(igune)]	1+1(egu_ne), [3(egune)]	1+1(igu_ne) [3(igune)]
	良くて	1(ekute)	1(ekute)	1(ikute)	1(ekute)	1(ikute)
	良かった	2(egatta)	2(egatta)	2(igatta)	1(egatta)	2(igatta)
2k2	濃い	1(koi)	1(koi)	1(koi)	1(koi)	1(koi)
	濃いもの	1+2(koi_mono)	1+2(koi_mono)	1+2(koi_mono)	1+2(koi_mono)	1+2(koi_mono)
	濃くなる	1+1(kogu_naru)	1+1(kogu_naru)	1+1(kogu_naru)	1+1(kogu_naru)	1+1(kogu_naru)
	濃くない	1+1(kogu_nE)	1+1(kogu_nE)	1+1(koigu_ne)	1+1(kogu_ne)	1+1(kogu_ne)
	濃くて	1(kokute)	1(kokute)	1(ko(i)kute)	1(kokute)	1(kokute)
	濃かった	1(kogatta)	1(kogatta)	1(ko(i)gatta)	1(kogatta)	2(kogatta)
3k1	赤い	0(agE)	0(agE)	0(age)	0(age)	0(age)
	赤いもの	0+2(agE_mono)	0+2(agE_mono)	0+2(age_mono)	0+2(age_mono)	0+2(age_mono)
	赤くなる	0+1(agEgu_naru)	0+1(agEgu_naru)	0+1(agegu_naru)	0+1(agagu_naru, agegu_naru)	0+1(agagu_naru)
	赤くない	0+1(agEgu_nE)	0+1(agEgu_nE)	0+1(agegu_ne)	0+1(agagu_ne)	0+1(agagu_ne)
	赤くて	0(agEkute)	0(agEkute)	0(agekute)	0(agakute, agekute)	0(agakute)
	赤かった	5(agEgatta)	5(agEgatta)	5(agegatta)	5(agagattaのみ)	5(agagatta, agegatta)
3k2	白い	2(sure)	2(sure)	2(sure)	2(siroi)	2(sire)

白いもの	2+2(sure_mono)	2+2(sure_mono)	2+2(sure_mono)	2+2 (siroi_mono)	2+2(siroi_ mono, sire_mono)
白くなる	2+1(suregu_ naru)	2+1(suregu_ naru)	2+1(suregu_ naru)	2+1(sirogu_ naru)	2+1(sirogu_ naru)
白くない	2+1(suregu_nE)	2+1(suregu_nE)	2+1(suregu_ne)	2+1(sirogu_ne)	2+1(sirogu_ne)
白くて	2(surekute)	2(surekute)	2(surekute)	2(sirokuteのみ)	2(sirokute)
白かった	2(suregatta)	2(suregatta)	2(suregatta)	2(sirogatta)	2(sirogatta, siregatta)